

気仙沼大島大橋の供用開始について

宮城県が、東日本大震災からの「復興のシンボル」として整備を進めてきた「気仙沼大島大橋」については、平成31年4月7日に供用開始することといたしましたので、お知らせいたします。

大島架橋事業については、大島地区住民が東日本大震災時に長期間にわたり孤立を余儀なくされる等、その必要性が再認識されたことから、復興のシンボル事業として、平成23年度に着手しました。

計画ルートは、震災を踏まえて、津波の浸水高を考慮した高さとし、三陸自動車道へのアクセスや防災集団移転計画など気仙沼市のまちづくり計画とも調整を図り、平成31年春の完成・供用を目指し事業を進めてまいりました。

今回の開通により、大島地区住民の日常生活における利便性の向上や、救急医療活動への支援、観光交流や産業の活性化などが期待されます。

○大島架橋の事業概要

延長・幅員：L=8km W=6.0 (10.0), 6.5(10.5) m

事業期間：平成23年度から平成32年度

事業費：約270億円（気仙沼大島大橋を含む）

○今回の供用区間

一般県道大島浪板線（浪板橋から大島磯草まで） L=5.5km（気仙沼大島大橋含む）

※一部区間（浪板橋～大浦間 L=600m）は、現道を拡幅し暫定ルートにより供用

○気仙沼大島大橋の事業概要

橋長・幅員：L=356m W=6.0(9.5)m

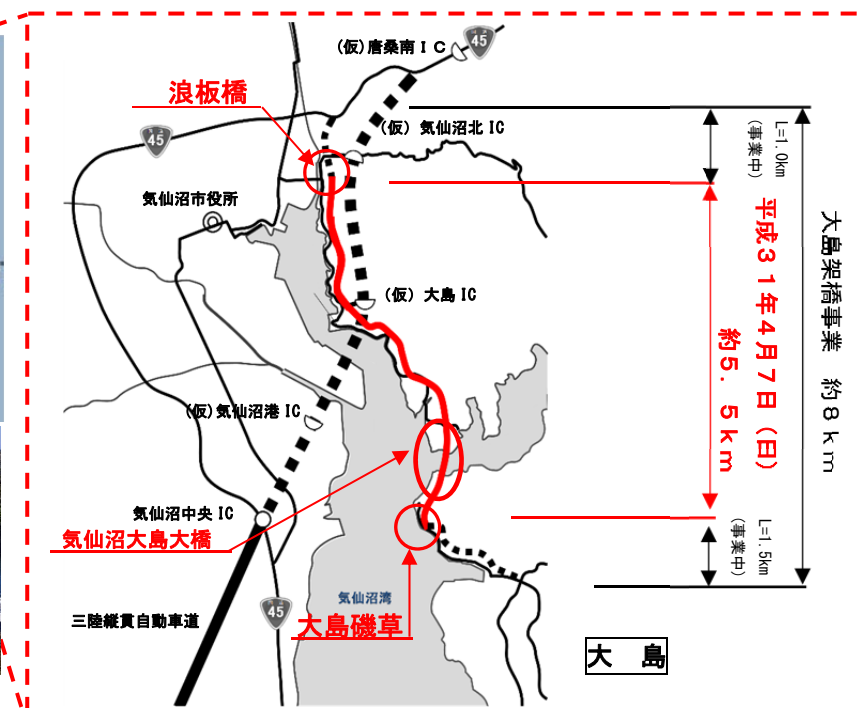
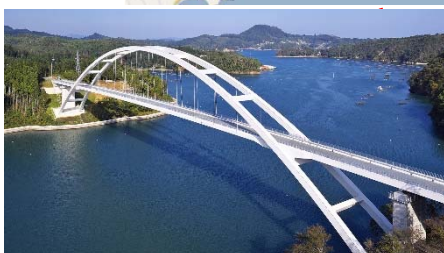
橋梁形式：鋼中路式アーチ橋

事業費：約60億円

○供用開始日

平成31年4月7日（日） 午後3時予定

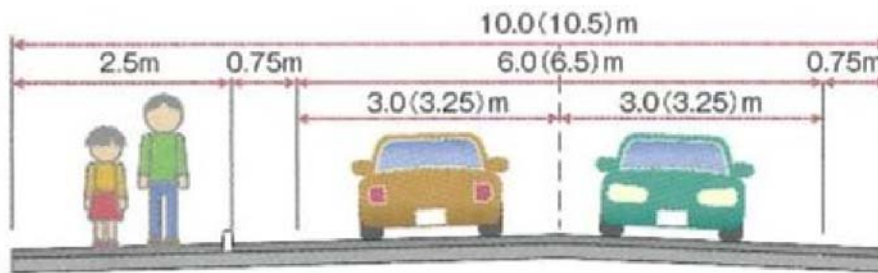
※開通式典等については、後日お知らせいたします



① 平面図



② 標準横断面図



③ 「大島架橋」による整備効果

■ 救急医療や災害時の安全・安心の確保

大島から気仙沼市立病院までの搬送時間の短縮が図られます。

(大島⇒気仙沼市立病院 15分短縮)

■ 生活の利便性の向上

大島から仙台市までの所要時間の短縮が図られます。

(大島⇒仙台 40分短縮) [気仙沼大島大橋と三陸縦貫自動車道が完成後]

■ 物流コストの低減・観光客の増大

海上輸送からトラック輸送に変換して物流コスト低減及び観光客の増大が期待されます。